

# かながわ資料ニューズレター

## ～ 催しもののご案内 ～

### 神奈川資料ミニ展示

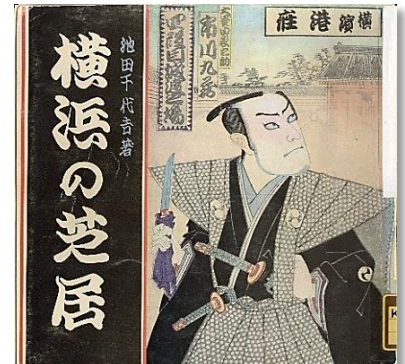
#### ◆「小田原馬車鉄道と小田原電気鉄道」

○期間：平成 30 年 8 月 10 日(金)～12 月 12 日 (水)

#### ◆「明治の娯楽－横浜の芝居と劇場 (予定)」

○期間：平成 30 年 12 月 14 日(金)～平成 31 年 3 月 13 日 (水)

※場所：新館 3 階エレベーターホール



『横浜の芝居』池田千代吉著  
池田泰子 1978 年[K77.1/29]

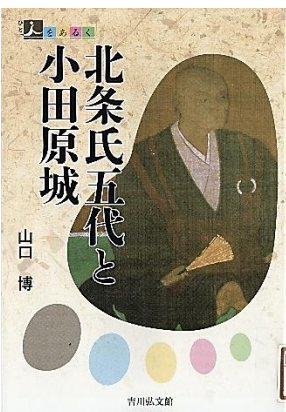


## 新着資料から

### ◆『北条氏五代と小田原城 人をあらく』

山口博著 吉川弘文館 2018 年 [K24.7/177]

北条氏は、上杉氏、武田氏、毛利氏などと並ぶ戦国屈指の大名です。明応年間（1492～1501）に韮山城に拠点据えた初代・宗瑞（北条早雲）は伊豆・相模などを平らげ、次いで二代・氏綱が小田原城に本拠を構えます。以後、北条氏は関東全域の領国化に向けて突き進み、五代・氏直の頃には、関東制覇は目前でした。しかし天正 18（1590）年、豊臣秀吉によってその夢は潰えます。本書は、こうした約 100 年に及ぶ北条氏の業績をたどるとともに、小田原城の発展の歩みを振り返っています。



北条氏には、戦国大名として特異な面が見られます。例えば戦国大名の多くが地域領主から発展したとされますが、宗瑞は将軍・足利義尚の申次などを務めた京下りの大名です。また、北条氏には一族間の対立が見られません。さらに長曾我部氏、島津氏、徳川氏など、戦国末期に数か国を領する規模に発展した大名の多くが、同様に秀吉と衝突しましたが、結果的に滅亡したのは北条氏のみでした。著者はこうした北条氏の特長にも焦点をあてて解説しています。

### ◆『宮川香山釉下彩 美術となった真葛 明治の釉下彩 1』

関和男著 創樹社美術出版 2018 年 [K75.1/44]

帝室技芸員・宮川香山は明治を代表する陶芸家です。当時から、香山釉下彩作品は欧米で高い評価を得ており、マクズウェアと呼ばれました。釉下彩とは明治時代に西洋から輸入された色絵技法で、従来の色絵は器が焼き上ってから絵付をしていましたが、釉下彩は焼き付け前に絵付をします。

香山は天保 13（1842）年、京都の陶家の四男として生まれました。明治 3（1870）年に貿易陶磁商品を制作するため、横浜に移住し、新たな窯を立ち上げます。そして、高浮彫という独創的な陶器を創出しました。しかし明治 15（1882）年頃から和漢の陶磁器を研究し、美術陶磁作品へと転向します。明治 20 年代後半、香山スタイルは確立され、その柱に釉下彩がありました。

今日、香山と言えば高浮彫と思われがちで、釉下彩作品の研究は進んでいません。本書は、そのような香山釉下彩作品を体系化して紹介するものです。





## 新着の神奈川資料

新着資料の一部をご紹介します。

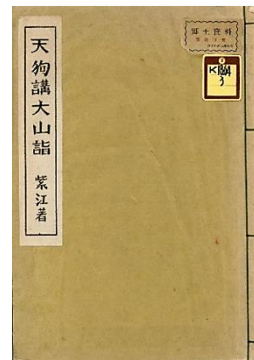
タイトル	著者名	出版者	出版年	請求記号
封印された殉教 上 第2版	佐々木宏人著	フリープレス	2018	K19.1/204/1
関東戦国全史 関東から始まった戦国 150年戦争 歴史新書y 079	山田邦明編	洋泉社	2018	K24/534
「建久四年曾我事件」と初期鎌倉幕府 曾我物語は何を伝えようとしたか	伊藤邦彦著	岩田書院	2018	K24/535
房総里見氏の城郭と合戦 図説日本の城郭シリーズ 9	小高春雄著	戎光祥出版	2018	K24.39/29
絵筆のバトン 画廊主・笠木和子の90年	細井聖著	読書サポート	2018	K28/495
福原高峰と「相中留恩記略」 近世民間地誌にみる「国」意識 近世史研究叢書 51	斉藤司著	岩田書院	2018	K291/886
僕たちが零戦をつくった 台湾少年工の手記	劉嘉雨著	潮書房光人新社	2018	K39.51/21

## 《うちのおたから自慢》

### 「天狗講大山詣」

磯ヶ谷紫江著 紫香会 1956年

[K18.64/3]



本書は、著者が昭和31(1956)年5月26日に行われた「天狗講発会式」と、翌日に行われた「酒祭り第五回」に参加し、その様子を記したもので、大山の歴史的考察も加えています。騰写版で、奥付に「限定 五十部 第七冊」(“七”は手書き)とあります。「天狗講」とは小生夢坊を主催とする文化集団で、「平和祈念の大山カーニバル」と記されています。画家・随筆家・社会評論家であった小生夢坊(1895-1986)は、石川県金沢市に生まれ、19歳で『中越日報』の編集長を務めます。上京後は浅草に住み、浅草に集う文化人・芸能人らの要となりました。また、一葉記念館、下町風俗資料館の建設にも尽くしています。著書に『天狗まんたん』などがあります。

本書には、発会式の当日は無形文化財の「大和舞」と「大山能狂言」、林屋正蔵の落語「大山詣」が行われ、翌日に「包丁式」(材料に手をふれず包丁と箸だけで調理する儀式)と「巫子舞」が行われた、と書かれています。

著者の磯ヶ谷紫江(1885-1961)は、『愛書家の散歩 続』によると墓蹟研究家であり、死絵(人気があった歌舞伎役者や芸人の歿後に板行される錦絵)の蒐集家でもあったといえます。判事だった父の赴任先の栃木県で生まれ、日大法科を卒業して法官庁の執達吏を務めました。『墓碑史蹟研究』や、浅草での会席記録である『奥山』、趣味生活を記した個人雑誌『紫江帖』などを発行しています。また、句会「半面」を主宰したり、蕎麦の研究も行いました。

著者は明治43(1910)年にも大山を訪れており、四谷愛住町(新宿区)の自宅を夕方に出て、渋谷から二子の渡しを経て翌朝、大山の下社に着き、さらに奥の院まで下駄で登ったと記しています。「天狗講」に参加した時は亡くなる5年前でしたが、最大斜度30度もある男坂を登って下社まで行った、と記されています。

- 【参考文献】・『神奈川県立図書館紀要 第9号』神奈川県立図書館 2011年 [請求記号: K097/4/9] 「<資料解説>かながわ資料室所蔵の大山関係資料について」鈴木めぐみ著
- ・『愛書家の散歩 続』斎藤夜居著 出版ニュース社 1984年 [請求記号: 024.2/3/2]
  - ・『20世紀日本人名事典 あ〜せ』日外アソシエーツ 2004年 [請求記号: 281.03/300/1]
  - ・「王朝しのぶ包丁式 伝統の技 横浜」神奈川新聞 1994年5月16日 18面
  - ・「神輿200キロ『おくだり』伊勢原・大山阿夫利神社大祭」神奈川新聞 2002年8月28日 21面

タイトル	著者名	出版者	出版年	請求記号
返子サンゴものがたり 相模湾の四季	長島敏春著	じゃこめてい出版	2018	K48.32/2
小田急 1800 形 昭和の小田急を支えた大量輸送時代の申し子 戎光祥レイルウェイブレット 4	生方良雄著	戎光祥出版	2018	K68/617
JR京浜東北線沿線の不思議と謎 じっぴコンパクト新書 348	松本典久編著	彩流社	2018	K68/618
鎌倉深奥 平川正枝写真集	平川正枝著	現代写真研究所出版局	2018	K74.4/37
サザンオールスターズが 40 年も愛される 48 の秘密 We Love SAS	SAS ウォッチャー編集部編	辰巳出版	2018	K76.53/24
真夏の球譜 上 K100 神奈川高校野球 かもめ文庫 70	神奈川新聞運動部編著	神奈川新聞社	2018	K78/328/1

## 📷 かながわ・フォーカス

### 【神奈川の祭り ～昭和の記録写真から～】



#### 《倭舞・巫子舞》…伊勢原市（大山阿夫利神社）

◆写真撮影日：昭和 39(1964)年 8 月 29 日 [請求記号：K45]

阿夫利神社の秋季大祭において、社務局の行在所で例年 8 月 28 日に奉納されるもので、県の無形民俗文化財に指定されています。阿夫利神社の祠官(しかん)・権田直助と孫の一作が、奈良春日大社の富田光美から伝授されたもので、富田家から伝わった写本「倭舞歌譜」によれば明治 6 (1873) 年に伝習を許され、明治 11 (1878) 年に初めて祭典で舞っています。原本は平安時代のものとされます。阿夫利神社では継承のため、明治 16 (1883) 年に「倭舞巫子舞規則」を制定し、舞は地元の中高生に受け継がれています。

倭舞は一歌～八歌まであり、10 歳～15 歳の少年 4 人で舞います。その他に六位舞という最年長者一人で行う舞が 3 曲あります。舞は、おおらかな王朝気分を漂わせています。

巫子舞は、「若宮」「計歌(ひとふた)」「珍らしな」など 7 曲があり、女兒(八乙女という)が 4 人ないし 6 人で舞います。その他に白拍子舞という、年長童女の一人舞が 2 曲あります。

計歌は特殊な舞態で、4 人が正方形舞形をとり、その中央に 2 人が立って舞い、途中でピョコンと跳りあがる振りがあります。『神奈川県文化財図鑑 第 3 巻 無形文化財・民俗資料篇』によれば、その歌詞は、原始信仰の呪術性をもつが、陰陽道にも通じるものがあり、研究資料として貴重な舞態、と考えられています。



【写真 1】白拍子舞の舞手は、水干(すいかん)を着て、立烏帽子を被り、腰に小刀(ちいさがたな)をさす。



【写真 2】倭舞の 8 曲は、各々異なった振りがついている。一歌が最も難しい。二歌から八歌までは、次第に複雑になる。

【参考文献】『神奈川県文化財図鑑 第 3 巻 無形文化財・民俗資料篇』神奈川県教育庁社会教育部文化財保護課 1973 年 [請求記号：K06/29/3]

・『神奈川県民俗芸能誌 増補改訂版』永田衡吉著 錦正社 1987 年 [請求記号：K38/15A]

## 《かながわ資料／新聞・雑誌室 利用のご案内》

当室では、神奈川県に関する資料や調査のしかたに関するご相談をお受けしています。  
来館もしくは電話・FAX・Eメール・手紙などお気軽にご相談ください。

※Eメールの場合はホームページからお申し込みください。

○開館時間：火曜～金曜日 午前9時～午後7時／土曜・日曜・祝日 午前9時～午後5時

○休館日：毎週月曜日（国民の祝日に当たる場合は開館）・毎月第2木曜日・年末年始等

◎個人への館外貸出は行っていません。著作権法に基づく複写サービスを行っております。

資料によっては、郵送による複写物の送付もできます（有料）。詳細はお問い合わせください。

### ～ 催しもののご案内 ～

#### 雑誌創刊号コレクション展示

##### ◆「創刊号コレクションからみるアイドル雑誌とその前身」

○期間：平成30年9月14日（金）～12月12日（水）

##### ◆「釣り雑誌」（予定）

○期間：平成30年12月14日（金）～平成31年3月13日（水）

※場所：新館3階エレベーターホール



#### JR・市営地下鉄線

「桜木町駅」より徒歩10分

#### 京浜急行線

「日ノ出町駅」より徒歩13分

#### みなとみらい線

「みなとみらい駅」より徒歩20分

#### 横浜市営バス

103系統（横浜駅東口始発）

「戸部1丁目」下車徒歩5分

「桜木町駅前」経由の系統（横浜駅東口始発）

「紅葉坂」下車 徒歩7分

#### 駐車場（有料）

普通車（1台）30分 200円

（最初の15分無料）

神奈川県立図書館 かながわ資料ニューズレター 第67号

平成30（2018）年11月22日 発行

神奈川県立図書館 企画サービス部地域情報課

〒220-8585 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2

電話 045-263-5904（かながわ資料／新聞・雑誌室直通）

FAX 045-241-0985

ホームページ <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/>

※「かながわ資料ニューズレター」は当館ホームページでもご覧いただけます。

神奈川県立図書館

